

# 弘前市保存樹木指定

指定番号 30, 31, 32

メタセコイア

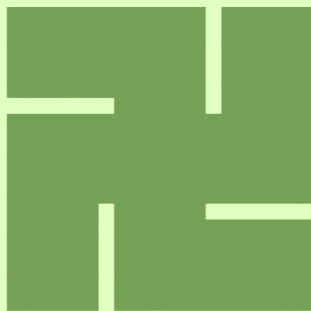
指定日

令和6年12月26日

指定理由

弘前大学文京キャンパス内のメタセコイア三本は、第二代弘前大学学長郡場寛先生の学長就任記念として昭和二十九年（一九五四）、及び昭和三十二年（一九五七）に植栽され、現在まで大切にされてきた。メタセコイアを新属の古生植物と発表した三木博士は、郡場寛先生の教え子であったため寄贈されたもので、日本国内においても早い段階で弘前市に導入されたものである。

推定樹齢七〇年以上。※指定当初



弘前市

## 郡場寛 第2代弘前大学学長について

植物学者 郡場 寛は、弘前藩士の家系で、青森市に生まれ、弘前市で過ごした中学生時代に植物学の道を志し、京都帝国大学理学部長を定年退官後、第二次世界大戦中の昭和17（1942）年に陸軍司政長官として、日本の統治下にあったシンガポールに赴任する。

昭和18（1943）年、郡場はシンガポール植物園長に就任し、日本軍による園内の樹木の伐採に抵抗し、貴重な標本や資料など植物園の礎を戦禍から守り抜いた。

また、日本の前にシンガポールを統治していたイギリスの植物学者に研究を続けさせ、学問に敵味方や国境はないということを、身をもって示すなど、現在でもシンガポールにおいて、郡場の功績は語り継がれている。



全国一のりんご生産地であった本県において、昭和24（1949）年に発足した弘前大学では農学部が切望されており、昭和29（1954）年に第2代弘前大学学長に就任した郡場は、農学部創設に尽力し、昭和30（1955）年にこれを成し遂げた。

このほか郡場は、現在の5学部体制（人文、教育、医学、理工、農学）の基礎をつくるなど、弘前大学の発展に大きく寄与。

また、戦後の荒廃した弘前公園の復興のため組織された鷹揚園管理審議会の初代会長に選任されたほか、現在の桜の管理方法「弘前方式」の基礎を築いた初代公園管理事務所の工藤 長政が、郡場に教えを乞うたと伝えられている。

郡場は、弘前市は観光と教育の発展に力を注ぐべき、と提言しており、現在の弘前市は観光都市、学園都市として歩み続けている。